

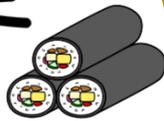
2月 園だより

暦の上では「立春」を迎え、厳しい寒さの中にも、ふとした瞬間に春の訪れを感じる季節となりました。子どもたちと散歩に行くと小さく膨らんだ梅のつぼみを見つけ、「あ！ここにお花が咲いてるよ」と嬉しそうに教えてくれる子どもたちの姿に、私たち保育者も心が温まる毎日です。

今年度も残り2ヶ月となりました。寒さに負けず、元気いっぱい走り回る子どもたち一人ひとりの成長をしっかりと見守りながら、一日一日を大切に過ごしていきたいと思えます。



2月の予定



| | |
|-------------|------------|
| 3日(火) | 節分 |
| 10日(火) | パンの日 |
| 10日(火) | ばら野外保育 |
| 12日(木) | うめ野外保育 |
| 12・13日(木・金) | 発育測定 |
| 13日(金) | さくら野外保育 |
| 17日(火) | マラソン・縄跳び大会 |
| 20日(金) | 誕生会 |
| 27日(金) | お別れ遠足 |
| 27日(金) | 弁当の日 |



お知らせ

～お別れ遠足～

- ・2月27日(金)にお別れ遠足を予定しています。詳しくは後日お知らせします。※保護者参加の行事ではありません。

～卒園式～

- ・3月7日(土)は卒園式を予定しています。当日は全職員で卒園児を送り出したいため、在園児の皆様には家庭保育のご協力をお願い申し上げます。行事運営へのご理解とご協力をお願いいたします。
- ※卒園式には、卒園児・卒園児の保護者・在園児代表として「うめ組」が参列いたします。

面談（お礼）

1月はお忙しい中、面談のお時間をつくっていただきありがとうございました。お子さんの園での様子や成長についてじっくりとお話することができ、とても有意義な時間となりました。

年度末を控え、進級や就学に向けた大切な時期となります。今回お話しいただいた内容を次年度の担任や小学校へしっかりと引き継ぎ、お子さんのさらなる成長を支援してまいりたいと思えます。



「ちがい」を、その子だけの輝きに 集団生活で見えてくる 『生きやすさ』のサイン

日ごとにたくましく成長する子どもたち。その姿を見守る時間は、私たち保育者にとっても、保護者の皆様にとっても、かけがえのない喜びです。

集団生活の中では、時に「あれ？」と周りとの違いを感じることもあるかもしれません。「言葉が少しゆっくりかな？」「じっとしているのが苦手かな？」といった、日常のささいな違和感です。実は、この「小さな気づき」こそが、お子様の未来を支える大切な鍵になります。

「お家での姿」と「園での姿」が違うのは、なぜ？

保護者の方から「家では特に困っていないのですが……」というお話を伺うことがあります。実はこれ、とてもよくあることなのです。

お家は、お子様にとって世界で一番安心できる場所です。ご家族がお子様のペースに合わせてくださっているため、特性が目立たないことも多いのです。しかし、園という「集団の場」では、決まった時間に動いたり、お友達と譲り合ったりといった「社会的なルール」が必要になります。

お家では目立たなかったことが、集団生活という環境の中で初めて「困りごと」として表面化することがあります。これはお子様のわがままではなく、「今の環境と、本人の特性がぶつかっているサイン」なのです。

早期に気づき、支えることのメリット

私たちは「早期発見」を、単なる診断ではなく、「その子が楽に生きるための工夫を早く見つけること」だと考えています。

1. 「困りごと」が小さいうちに対処できる

子ども自身が「自分だけできない」と自信を失う前に、その子に合った声かけや環境を整えてあげられます。

2. 二次的な心の傷を防げる

「努力が足りない」と誤解され、叱られ続けることで自己肯定感が下がるのを防ぎます。「味方がいる」という安心感が、子どもの心を強くします。

3. その子の「得意」を伸ばす時間が手に入る

特性を知ることは、勝ちパターンを見つけることです。得意なことを伸ばすための準備期間が長くなります。

抱え込まず、一緒に歩いていきましょう。

発達の特徴は、決して育て方のせいではありません。その子が持って生まれた、唯一無二の個性です。早くからその子に合った靴（関わり方）を用意してあげること。それが、将来お子様が自分の足で、軽やかに歩いていくための最大のプレゼントになります。

園は、保護者の皆様と一緒に悩み、喜び、お子様の最良の理解者でありたいと願っています。どんなに小さなことでも、いつでもお話しください。



発表会・講演会

先日はお忙しい中「生活発表会」ならびに「包括的性教育講演会」にお越しいただき、誠にありがとうございました。

感染症の影響により、参観日と同時開催となりましたが、保護者の皆様の温かな眼差しのおかげで、子どもたちは緊張しながらも、ステージで見せてくれた自信に満ちた表情は、また一つ大きな成長の証だと感じています。

今回の発表会は運動会同様に、子どもたちの「やってみたい！」を詰め込んだプログラムには驚かれた方もいらっしゃるかもしれませんが、正直なところ、私たちも当日まで不安はありましたが、「自分たちで決めたことだから、この子たちを信じよう」という強い想いで当日を迎えました。

会場に沸き起こった自然な手拍子や笑い声、温かな拍手。今までにないあの一体感は、何よりも子どもたちの自信につながったはずです。

また、この日行われた助産師さんによる講演会にも、多くの方にご参加いただきありがとうございました。

今回の講演会では、子どもの人権やプライベートゾーン、性被害など重いテーマではありますが、講演会中に涙を浮かべて聴き入るお父さんやお母さんの姿に、開催して本当に良かったと思いました。

私たち保育者は、園内での安全管理を徹底するとともに、子どもたちが「自分の体は自分だけの大切なもの」であることを正しく理解できるよう、日々の関わりを大切にしています。

何より大切なのは、万が一の時に子ども自身が「それはおかしい」と気づき、信頼できる大人に助けを求められる力を育むことです。

講演会を通して、園と家庭が同じ共通意識を持ち、子どもたちを多角的に守っていく大切さを改めて実感いたしました。

「自分を大切にすること」の大切さを、ぜひご家庭でも温かな言葉で伝えてあげてください。

今後とも本園の教育方針へのご理解とご協力をお願いいたします。



たくさんの感想ありがとうございました！

発表会を終え、保護者の皆様から温かい感想をいただきました。その中から、ある保護者様に直接感想をいただきましたのでご紹介させていただきます。

これまでの発表会とは違った形と聞いて最後の発表会だから例年通りにしてほしいかと思っておりましたが、発表会をみて今までは「〇〇で間違ってたね～、〇〇のセリフ忘れてたでしょ！」と子どものできていない部分に目を向け子どもに伝えてしまっていました。でも今年の発表会は笑いがあり、セリフを忘れていても、間違っても会場が温かい雰囲気です。子どもたちのやりたい、見せたいが詰まった発表会だったから子どもたちも楽しんで発表することができたのでしょね。

今までの発表会は感動で涙になることが多かったけど、笑いのある発表会もいいなと思いました。

と素敵なお言葉をいただき、胸が熱くなりました。

これまでの発表会はきれいに揃った衣装を身にまとい、決められたセリフやリズムを完璧に披露することを目指してきました。それは一つの完成された姿ではありますが、ともすれば大人に「言われたとおりに動く」形になりがちだったかもしれません。

私たちが大切にしたいのは、子どもたち自身が「心からやりたい」と思い、自分たちで考え、工夫するプロセスです。今回、保護者の皆様にその思いが伝わり、子どもたちの「ありのままの輝き」を認めていただけたことは私たち職員にとっても大きな励みとなりました。「教え込まれる学びから」「自ら見つけ出す学び」へと変化し、これからも、子どもたち一人ひとりが主人公となり、目を輝かせて園生活を送れるよう、日々の保育を大切に積み重ねてまいります。

講演会でご紹介された絵本です

